

## 2015年度 通期業績概要

株式会社 安川電機

2016年4月20日

(対象期間：2015年3月21日～2016年3月20日)

© 2016 YASKAWA Electric Corporation

## 1. 2015年度(2016年3月期)連結決算

- 2015年度通期実績 (概要・セグメント別)
- 事業セグメント別売上高構成比
- 仕向先別売上高 / 売上高構成比
- 営業利益増減要因分析 (14年度⇒15年度)
- 2015年度における取り組み

## 2. 2016年度(2017年3月期)の見通し

- 2016年度通期見通し (概要・セグメント別)
- 営業利益増減要因分析 (15年度⇒16年度)
- 連結売上高・営業利益推移
- 2016年度における取り組み

## 3. 参考資料

- 設備投資,研究開発費,為替状況
- B/S構造の推移
- 連結売上高・営業利益推移
- 四半期連結売上高推移
- 四半期別連結受注推移
- 主要生産拠点

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与える重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

# セグメント別事業概要

## モーション コントロール (M)

### 【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ パワーコンディショナ
- ・ EV用モータドライブシステム など



ACサーボ



汎用インバータ



GaN搭載 太陽光発電用  
パワーコンディショナ



EV用モータドライブ  
システム

## ロボット (R)

### 【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
  - アーク・スポット溶接, 塗装ロボット
  - FPD搬送ロボット, 新世代ロボット, ハンドリングロボット
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオ・メディカル用途向けロボット など



新形アーク溶接ロボット



バイオメディカル向け  
新形双腕ロボット



パラレルリンクロボット

## システム エンジニアリング (S)

### 【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 大型風力発電用電機品 など



大型風力発電用  
発電機とコンバータ



連続鋳造設備



上下水道用  
電気計装システム

## その他

### 【主要製品】

- ・ 情報関連事業
- ・ 物流サービス など

---

# 1. 2015年度(2016年3月期) 連結決算

## 2015年度 通期実績 (概要)

### ● 売上高、営業利益・経常利益は、過去最高を達成

	<b>15年度 実績</b>	15年度 計画	計画比	14年度 実績	<b>前年同期比</b>	
					増減額	増減率
売上高	<b>4,113億円</b>	4,100億円	+13億円	4,002億円	<u>+111億円</u>	<u>+2.8%</u>
営業利益	<b>367億円</b>	355億円	+12億円	315億円	<u>+52億円</u>	<u>+16.5%</u>
経常利益	<b>358億円</b>	355億円	+3億円	339億円	<u>+19億円</u>	<u>+5.8%</u>
当期純利益	<b>224億円</b>	230億円	▲6億円	248億円	<u>▲25億円</u>	<u>▲9.9%</u>

[注] 表内「15年度計画」は、2016年01月20日 3Q決算発表時の数値

# 2015年度 通期実績 (セグメント別)

## ● 堅調な(R)が牽引し、売上高・利益ともに増収増益

(単位：億円)

	15年度		15年度		計画比 増減額	2014年度		前年同期比	
	実績	利益率	計画	利益率		実績	利益率	増減額	増減率
<b>売上高</b>	4,113		4,100		+13	4,002		+111	+2.8%
(M) モーションコントロール	1,875		1,860		+15	1881		▲6	▲0.3%
(R) ロボット	1,541		1,535		+6	1360		+181	+13.3%
(S) システムエンジニアリング	431		420		+11	410		+21	+5.1%
その他	266		285		▲19	351		▲85	▲24.2%
<b>営業利益</b>	367	8.9%	355	8.7%	+12	315	7.9%	+52	+16.5%
(M) モーションコントロール	224	12.0%	207	11.1%	+18	217	11.6%	+7	+3.1%
(R) ロボット	153	9.9%	162	10.6%	▲9	106	7.8%	+47	+44.9%
(S) システムエンジニアリング	▲8	-	▲11	-	+4	▲8	-	+0	-
その他	9	3.2%	9	3.3%	▲1	13	3.6%	▲4	▲33.1%
消去または全社	▲11	-	▲12	-	+1	▲13	-	+2	-
<b>経常利益</b>	358	8.7%	355	8.7%	+3	339	8.5%	+19	+5.8%
<b>当期純利益</b>	224	5.4%	230	5.6%	▲6	248	6.2%	▲25	▲9.9%

[注] 表内「15年度計画」は、2016年01月20日 3Q決算発表時の外部発表数値

## 2015年度実績（セグメント別）

### モーションコントロール

- ACサーボは、下期以降に中国のスマートフォン関連及び自動車向け需要が弱含むも、米州を中心に工作機・半導体が牽引し、総じて堅調。新製品の切替えも進み収益性は向上
- 汎用インバータは米国のオイル&ガス市場向け、中国のインフラ関連の需要が低迷。一方、昨年買収したSOL社の貢献により、売上は総じて堅調

[注] SOL社：Solectria Renewables, LLC (米国) …太陽光発電用パワーコンディショナー

### ロボット

- 自動車向け市場では、下期以降に中国における景気減速や競争激化があった一方、米州・欧州を中心にグローバルでは堅調
- ロボットセンタでの拡販効果により食品産業など自動車分野以外の一般産業市場向けが伸張

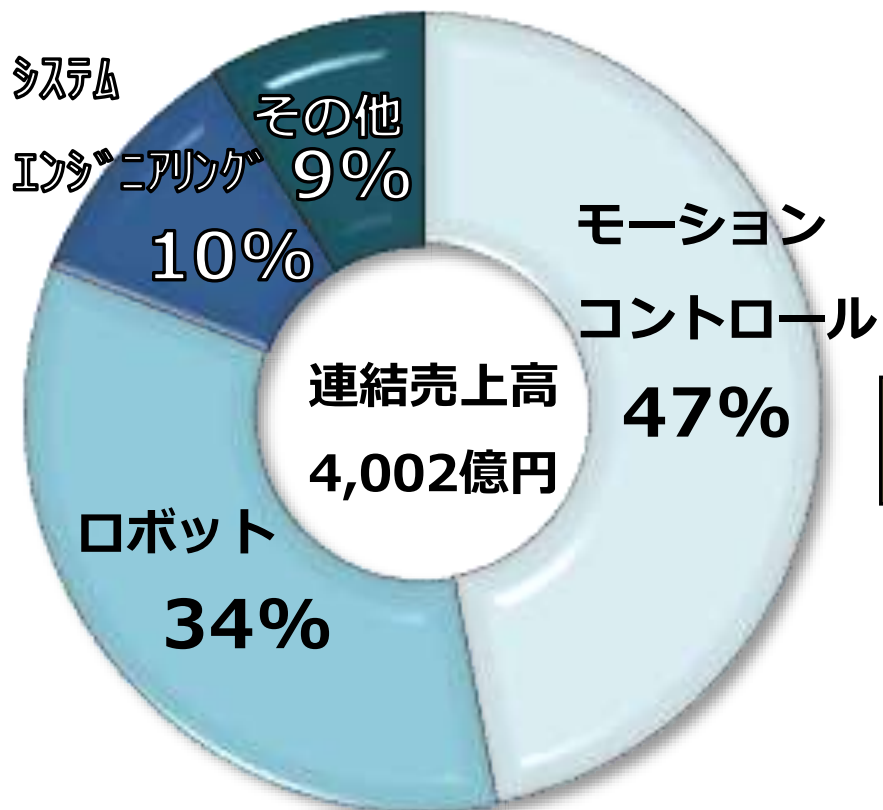
### システムエンジニアリング

- 主力の鉄鋼プラント、社会システムは需要低迷も総じて堅調
- Switch社の子会社化に伴い、大型風力発電関連の売上が増加

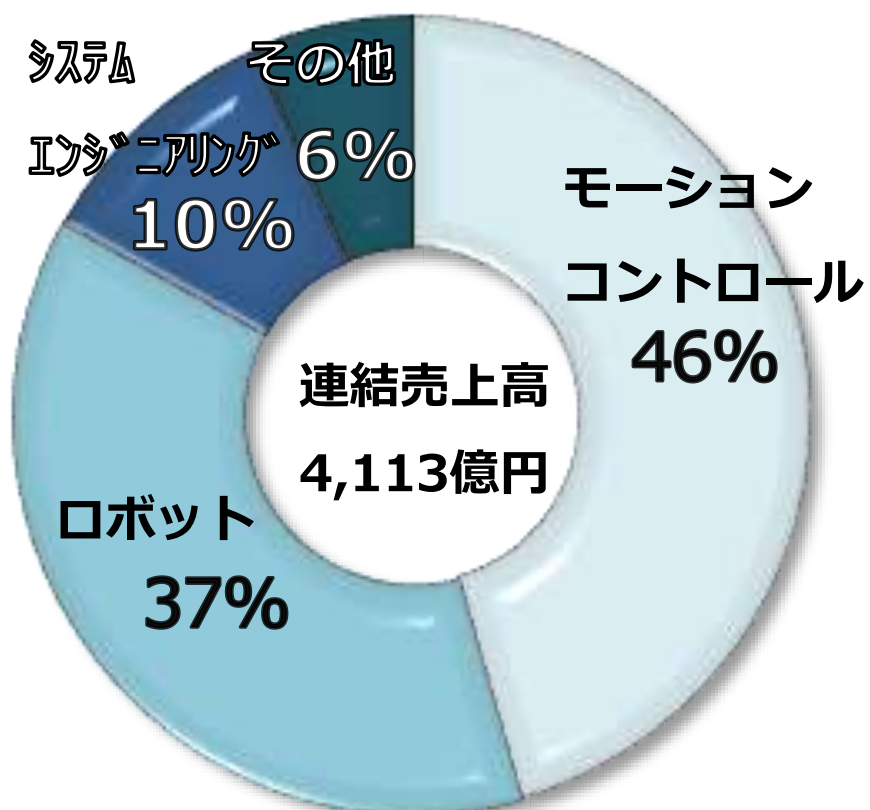
[注] Switch社：The Switch Engineering Oy (フィンランド)

# 事業セグメント別売上高構成比

## 2014年



## 2015年



## 仕向先別売上高（2014年度 → 2015年度）

### ● 欧米を中心に海外売上高が伸張

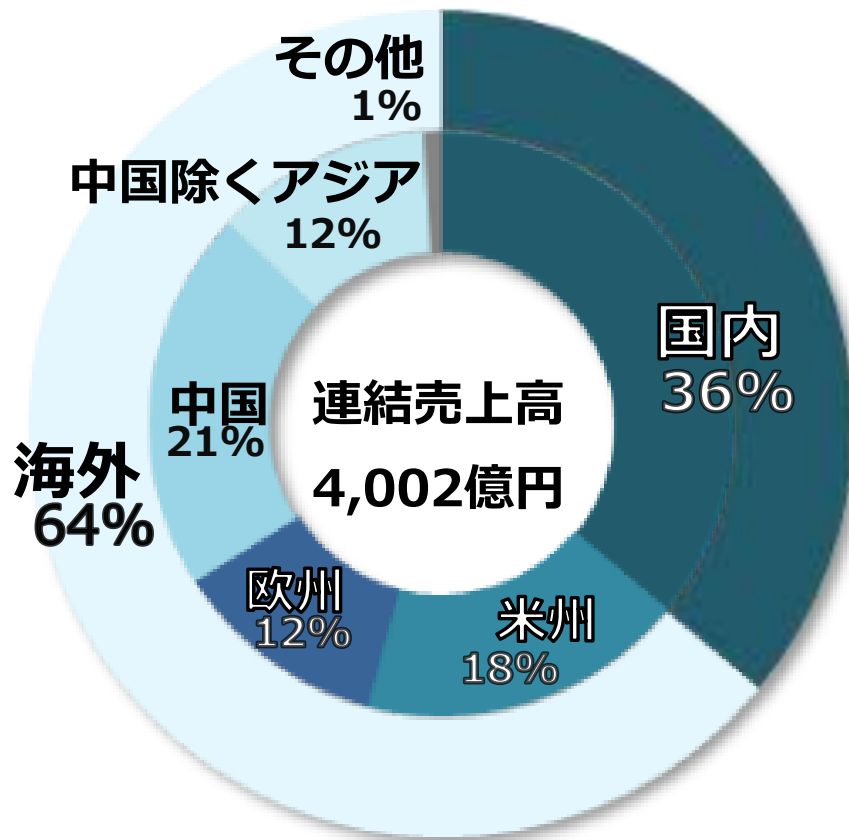
（単位：億円）

	2015年度	2014年度	前年同期比	
			増減額	増減率
<b>売上高</b>	<b>4,113</b>	<b>4,002</b>	<b>+111</b>	<b>+2.8%</b>
<b>国内</b>	<b>1,355</b>	<b>1,442</b>	<b>▲88</b>	<b>▲6.1%</b>
<b>海外</b>	<b>2,758</b>	<b>2,559</b>	<b>+199</b>	<b>+7.8%</b>
<b>米州</b>	<b>851</b>	<b>726</b>	<b>+125</b>	<b>+17.2%</b>
<b>欧州</b>	<b>520</b>	<b>469</b>	<b>+51</b>	<b>+10.8%</b>
<b>中国</b>	<b>819</b>	<b>850</b>	<b>▲31</b>	<b>▲3.6%</b>
<b>中国除くアジア</b>	<b>524</b>	<b>478</b>	<b>+46</b>	<b>+9.6%</b>
<b>その他</b>	<b>44</b>	<b>36</b>	<b>+8</b>	<b>+21.7%</b>

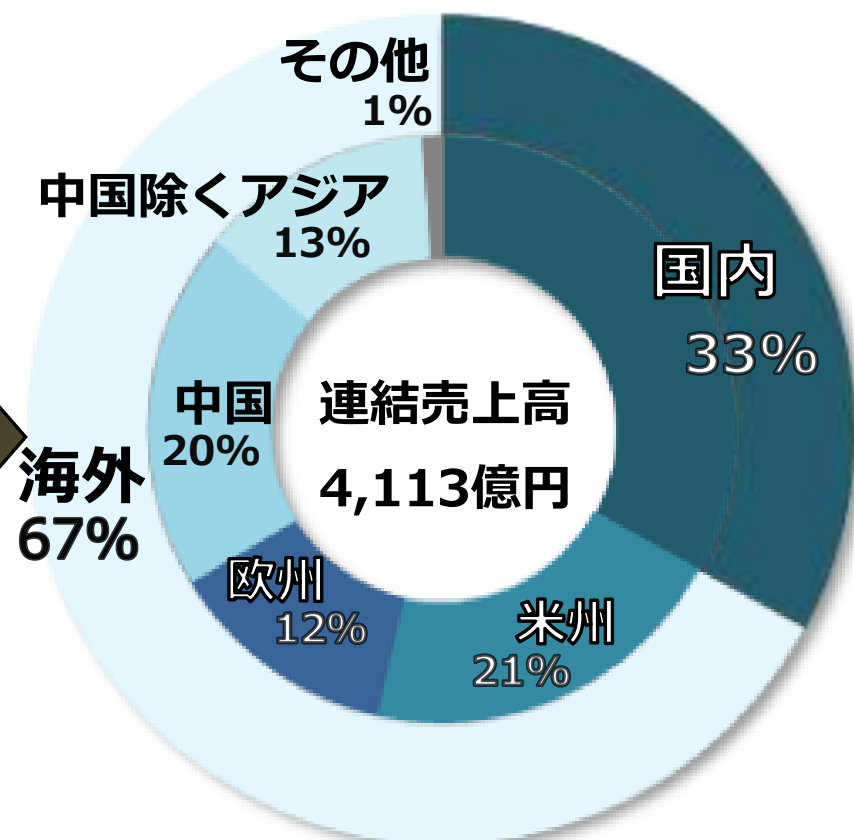
[注] その他には、南アフリカ、オーストラリア等を含みます

● 米州を中心に海外売上高が大幅に伸長

2014年度

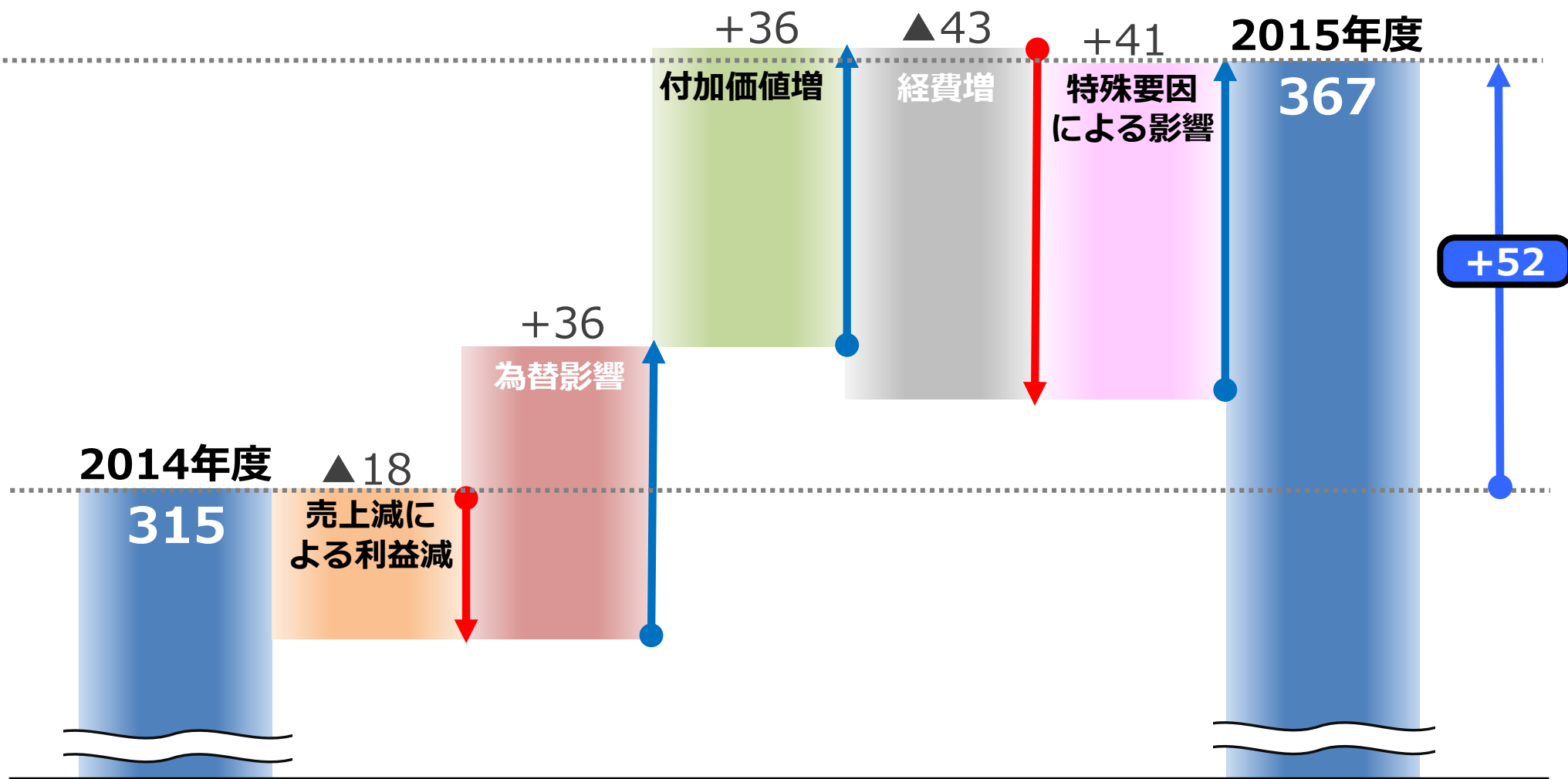


2015年度



# 営業利益増減要因分析（2014年度 → 2015年度）

（単位：億円）



# 2015年度における取り組み (1)

## ➤ 既存事業の収益拡大

- ・ ACサーボドライブ「Σ-7」シリーズへの切り替え
- ・ 中国を中心に切替を加速
  - ➔ Σ-7製品切替率：15年度 約40% (中国：約75%)



Σ-7シリーズ

- ・ マトリクスコンバータ U1000の拡販
- ・ 高調波レス、大幅な省エネ、小型化を実現
  - ➔ データセンタ、病院、空調、コンプレッサなど幅広い用途へのニーズに対応

マトリクスコンバータ  
U1000



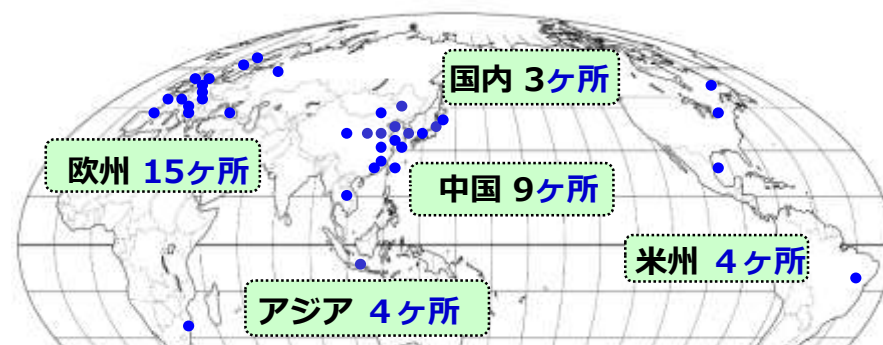
- ・ ロボットセンタを活用した一般産業向け売上拡大
- ・ 一般産業市場のSIer育成・開拓
- ・ 15年度に国内外 4ヶ所の新設  
(日本(中部)、中国(常州・佛山)、韓国(テグ))



中部ロボットセンタ



韓国ロボットセンタ



31ヶ所(14年度末) + 4ヶ所(15年度中) = 35ヶ所(15年度末)

## 2015年度における取り組み (2)

### ➤ 開発力・生産力・販売力の強化による事業遂行力強化

#### ・次世代主力製品の開発加速

##### ・次期インバータ「ゼロシリーズ」の開発 (16年4月発売)

- 地域・市場ごとに最適なアプリケーション別製品を展開し、シェア拡大を目指す



次期インバータ「ゼロシリーズ」

##### ・2016年モデル (MOTOMAN-GPシリーズ) 及び 新型ロボットコントローラの開発 (6月製品化予定)

- ダントツ性能&コントローラ世界最小サイズを実現



MOTOMAN-GP8

新形コントローラ  
YRC1000

MOTOMAN-HC10

##### ・世界初のフルSiC搭載マトリクスコンバータを開発 (15年8月)

- 入出力電圧電流の正弦波化で、小型化・省電化を実現

##### ・人共存型ロボットMOTOMAN-HC10の開発 (15年11月)

- 国際規格に準拠し、安全柵無しで人との共存を実現し新市場を開拓

##### ・GaN※パワー半導体搭載アンプ内蔵サーボモータの開発

- 体積1/4(従来比)、高効率化(電力損失:12%低減)を実現 (15年11月)

※Ga(ガリウム)とN(窒素)の化合物半導体



アンプ内蔵サーボモータ

## 2015年度における取り組み (3)

### ➤ 開発力・生産力・販売力の強化による事業遂行力強化

#### ・グローバル生産体制の強化

- ・ロボットのグローバル生産3,000台/月 体制の確立

(国内：新第3工場の稼動(15年9月) / 中国・常州600台体制の確立)

#### ・中国家電トップメーカー美的集団との提携

- ・ロボット事業を展開する合併会社2社を設立

→中国における家電生産現場でのロボット化加速

→高齢化が進む中国での介護・リハビリロボットの市場開拓

#### ・韓国Doolim社との提携

- ・塗装/シーリングロボットのシステム事業強化

### ➤ 新規事業の立ち上げ加速ならびにグローバル展開

#### ・大型風力発電用電機品の販売加速 (Switch社とのシナジー創出)

- ・世界の主要風車メーカー攻略

- ・船舶用省エネ電気システム事業の開発

#### ・太陽光パワコン事業の拡大

- ・絶縁方式の太陽光発電用パワーコンディショナ投入

- ・米国メガソーラ市場での拡販 (SOL社とのシナジー創出)



新第3工場 外観



Switch社 外観

### ▶ ヒューマトロニクス事業領域における取り組み加速

- **歩行アシスト装置「ReWalk」の国内販売開始 (15年5月)**
  - 脊髄損傷による下肢麻痺者の歩行を実現
  - 病院・施設向けおよび個人向け販売を推進
- **下肢リハビリ装置「LR<sup>2</sup>」の拡販**
  - 日本・中国での病院向けに販売を推進
  - 中国美的集団との合併会社を通じた市場開拓
- **促通反復療法のリハビリ装置「前腕回内回外訓練装置」の開発 (15年8月)**
  - 早期の製品化に向けた臨床研究・実証評価を実施
- **ロボット介護機器「屋内移動アシスト装置」\*の開発 (15年12月)**
  - 厚生労働省の介護ロボット導入支援特別事業の対象機器として、16年下期での市場投入に向けた生産・販売体制の準備

※経済産業省・国立研究開発法人日本医療研究開発機構のロボット介護機器開発・導入促進事業の一環としての取り組み



ReWalk



下肢用リハビリ装置  
LR<sup>2</sup>



屋内移動アシスト装置

---

## 2. 2016年度通期 連結決算見通し

## 2016年度通期見通し（概要）

- 円高影響などにより、売上高・利益ともに減収減益

	<u>16年度</u>	15年度 実績	<u>前年同期比</u>	
	<u>予想</u>		増減額	増減率
売上高	<u>4,000億円</u>	4,113億円	<u>▲113億円</u>	<u>▲2.7%</u>
営業利益	<u>280億円</u>	367億円	<u>▲87億円</u>	<u>▲23.8%</u>
経常利益	<u>285億円</u>	358億円	<u>▲73億円</u>	<u>▲20.5%</u>
当期純利益	<u>180億円</u>	224億円	<u>▲44億円</u>	<u>▲19.5%</u>

# 2016年度通期見通し（セグメント別）

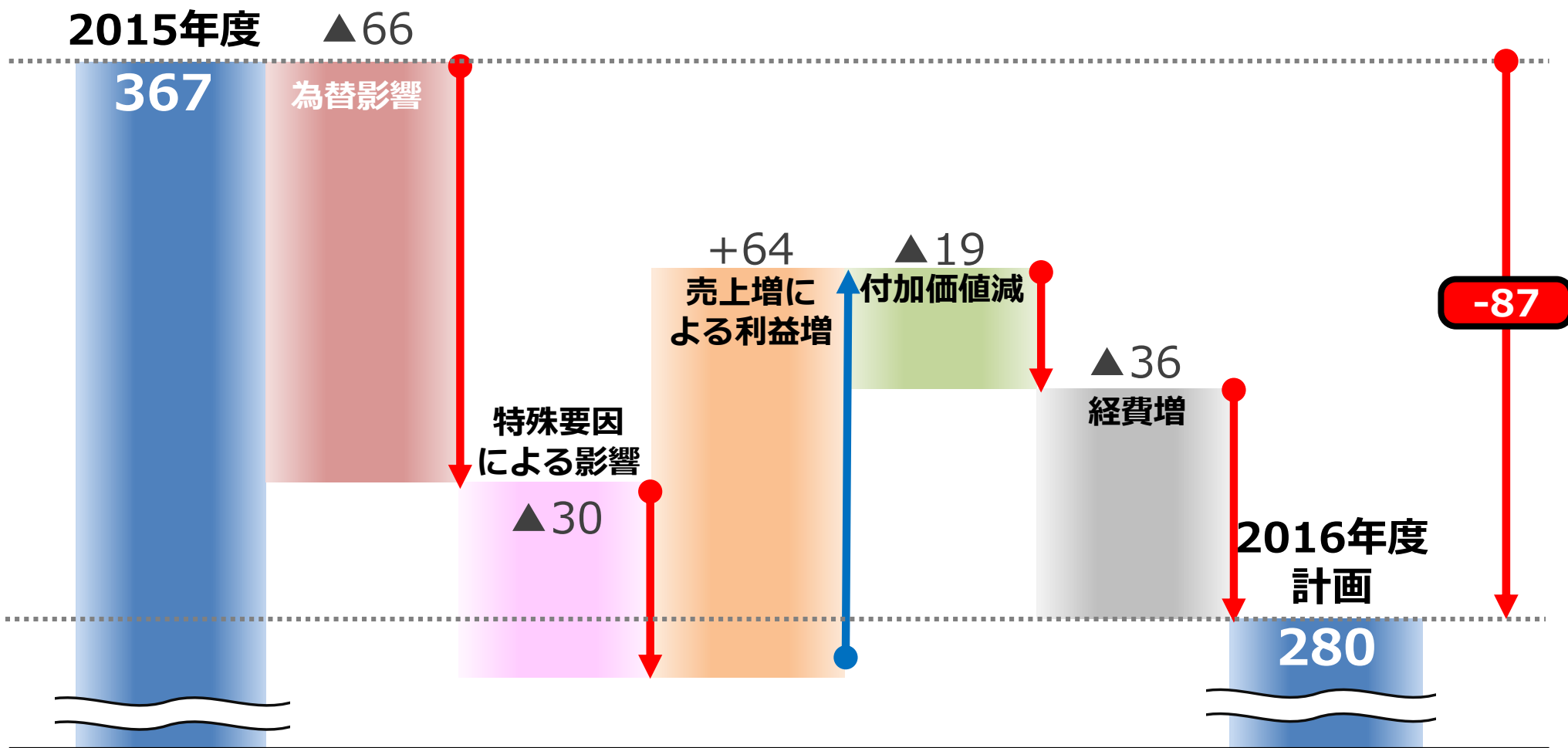
- 円高影響を受け、(M) (R) とともに減収減益
- (S)はスイッチ社の売上拡大もあり黒字化

(単位：億円)

		16年度		15年度		前年同期比	
		計画	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
<b>売上高</b>		4,000		4,113		▲113	▲2.7%
(M)	モーショントロール	1,800		1875		▲75	▲4.0%
(R)	ロボット	1,500		1541		▲41	▲2.6%
(S)	システムエンジニアリング	470		431		+39	+9.2%
	その他	230		266		▲36	▲13.5%
<b>営業利益</b>		280	7.0%	367	8.9%	▲87	▲23.8%
(M)	モーショントロール	174	9.7%	224	12.0%	▲50	▲22.4%
(R)	ロボット	113	7.5%	153	9.9%	▲40	▲26.2%
(S)	システムエンジニアリング	1	0.2%	▲8	-	+9	-
	その他	3	1.3%	9	3.2%	▲6	▲64.9%
	消去または全社	▲11	-	▲11	-	▲0	-
<b>経常利益</b>		285	7.1%	358	8.7%	▲73	▲20.5%
<b>当期純利益</b>		180	4.5%	224	5.4%	▲44	▲19.5%

# 営業利益増減要因分析（2015年度 → 2016年度計画）

（単位：億円）



# 2016年度における取り組み（1）

## ➤ コア事業の売上拡大

- ・ 次期インバータ「ゼロシリーズ」の拡販（16年4月発売）
- ・ 産業用ロボット「2016年モデル」の市場投入
  - ・ 8kg・12kg可搬アーク溶接&ハンドリング用途の投入（6月、7月順次製品化予定）
- ・  $\Sigma$ -7シリーズのラインアップ拡充
  - ・ 4極開発によるシリーズ製品ラインアップ拡充
  - ・ 重点アプリケーション市場(低シェア市場)の攻略
- ・ ロボットセンタによる一般市場向けSI販売網の拡大
  - ・ 15年度までの拠点をフル活用し売上拡大
- ・ M&Aのシナジー最大化
  - ・ 韓国Doolim社：塗装・シーリングシステム事業の拡大
  - ・ 美的集団：家電組立工程でのロボット活用拡大

次期インバータ「ゼロシリーズ」



新形コントローラ YRC1000

MOTOMAN-GP12



中部ロボットセンタ  
(内観)

## 2016年度における取り組み（2）

### ➤ 環境・エネルギー分野のコア事業化加速

#### ・太陽光パワコン事業のグローバル展開

- ・新製品による国内のシェアアップ（絶縁方式10kW、住宅向けGaN）
- ・SOL社とのシナジー最大化（グローバル製品の投入）



Enewell-SOL  
V1シリーズ 4.5kW

#### ・環境エネルギー事業のコア事業化

- ・スイッチ社とのシナジー最大化

➔ 大型風力発電事業の拡大および船舶省エネ事業への本格参入



Enewell-SOL P2H  
(9.9kW 200V級 三相)

#### ・中国 奇瑞安川電駆動系統有限公司の設立（16年6月予定）

- ・車載用電気駆動システム事業の拡大



Switch社製品群

### ➤ 開発力・生産力・販売力の強化

#### ・安川版インダストリ4.0に対応した次世代コネクティド開発

- ・販売力の再強化（トップセールスの強化、マーケティング機能の再編）
- ・徹底した共通化プラットフォーム構築（BTO生産対応）

### ➤ 新規事業の創出

#### ・バイオメディカル分野での事業化加速

- ・産総研の技術移転ベンチャーRBI\*を通じた市場開拓

\*ロボティクス・バイオロジー・インスティテュート株式会社



バイオメディカル向けロボット Motoman-BMDA3

---

## 3. 参考資料

# 設備投資、研究開発費、為替状況

## ◆設備投資の状況

(単位：億円)

	2014年度	2015年度	2016年度計画
設備投資額	363.7	167.6	190.0
減価償却費	115.3	130.6	130.0

## ◆研究開発投資の状況

(単位：億円)

	2014年度	2015年度	2016年度計画
研究開発投資	153.1	168.2	180.0

## ◆為替状況

(円)

	2014年度			2015年度			2016年度想定
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	通期
対 米ドル	102.2	114.2	108.2	121.9	119.8	120.8	110.0
対 ユーロ	139.4	139.9	139.7	134.3	131.8	133.0	125.0

# B/S構造の推移

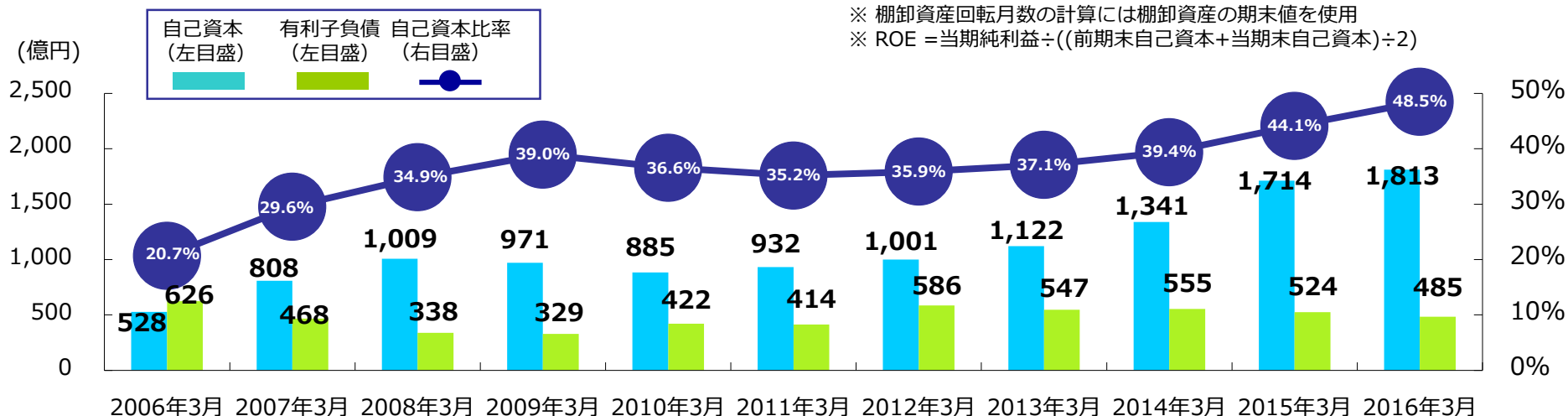
## 2015年3月20日時点

- ▶ 自己資本比率 44.1%
- ▶ 自己資本 1,714億円
- ▶ 有利子負債 524億円
- ▶ D/Eレシオ 0.31  
(ネットD/Eレシオ) 0.16
- ▶ 棚卸資産 855億円  
(回転月数) (2.6ヶ月)
- ▶ ROE 16.3%

## 2016年3月20日時点

- ▶ 自己資本比率 48.5%
- ▶ 自己資本 1,813億円
- ▶ 有利子負債 485億円
- ▶ D/Eレシオ 0.27  
(ネットD/Eレシオ) 0.09
- ▶ 棚卸資産 775億円  
(回転月数) (2.3ヶ月)
- ▶ ROE 12.8%

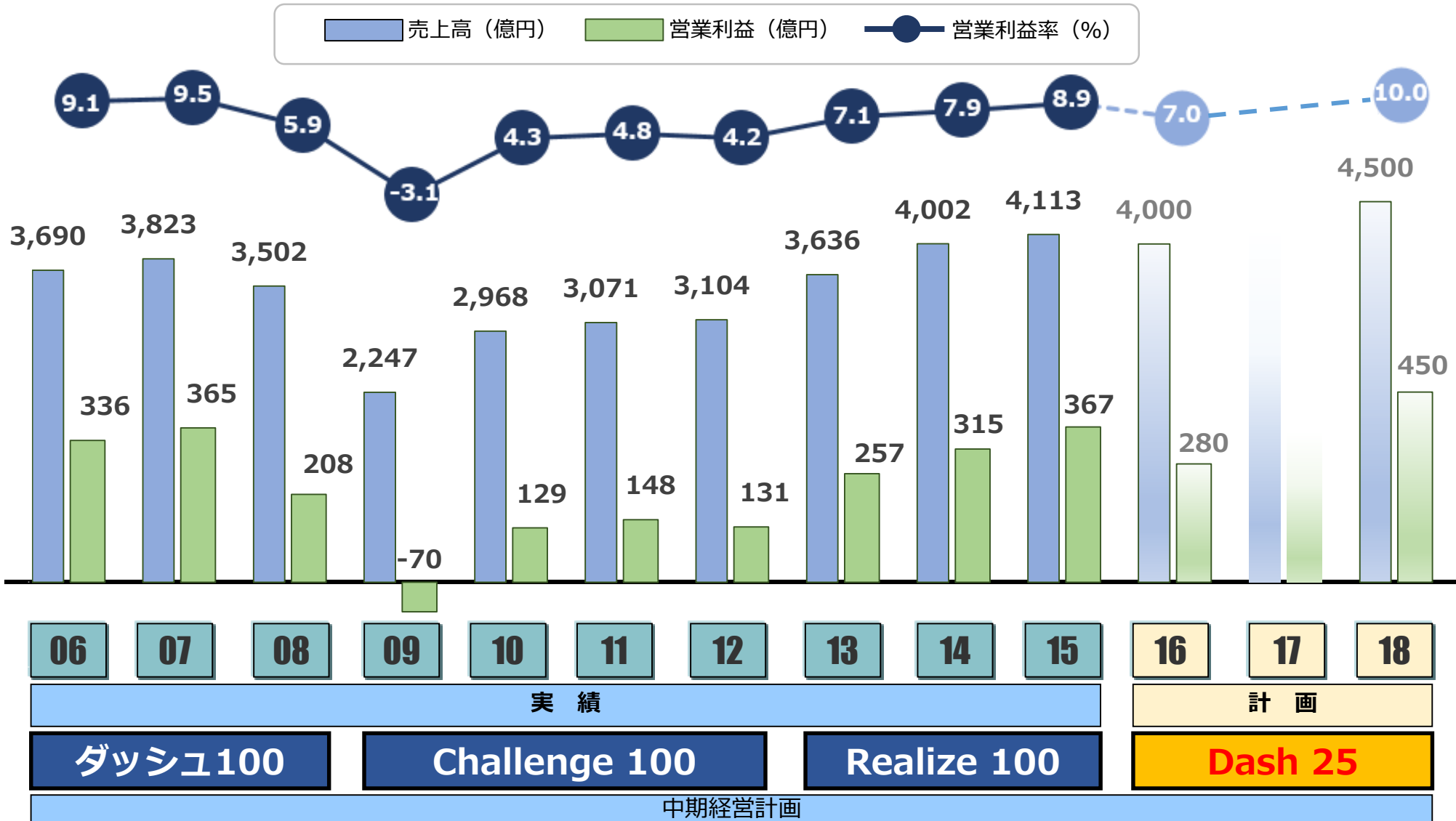
※ 有利子負債は新株予約券付社債及びリース債務を含む  
 ※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用  
 ※ ROE = 当期純利益 ÷ ((前期末自己資本 + 当期末自己資本) ÷ 2)



営業CF	187	150	177	125	40	25	64	246	240	290	320
投資CF	▲97	▲61	▲99	▲107	▲65	▲67	▲119	▲181	▲169	▲279	▲224
フリーCF	90	89	78	18	▲24	▲43	▲55	66	70	11	95

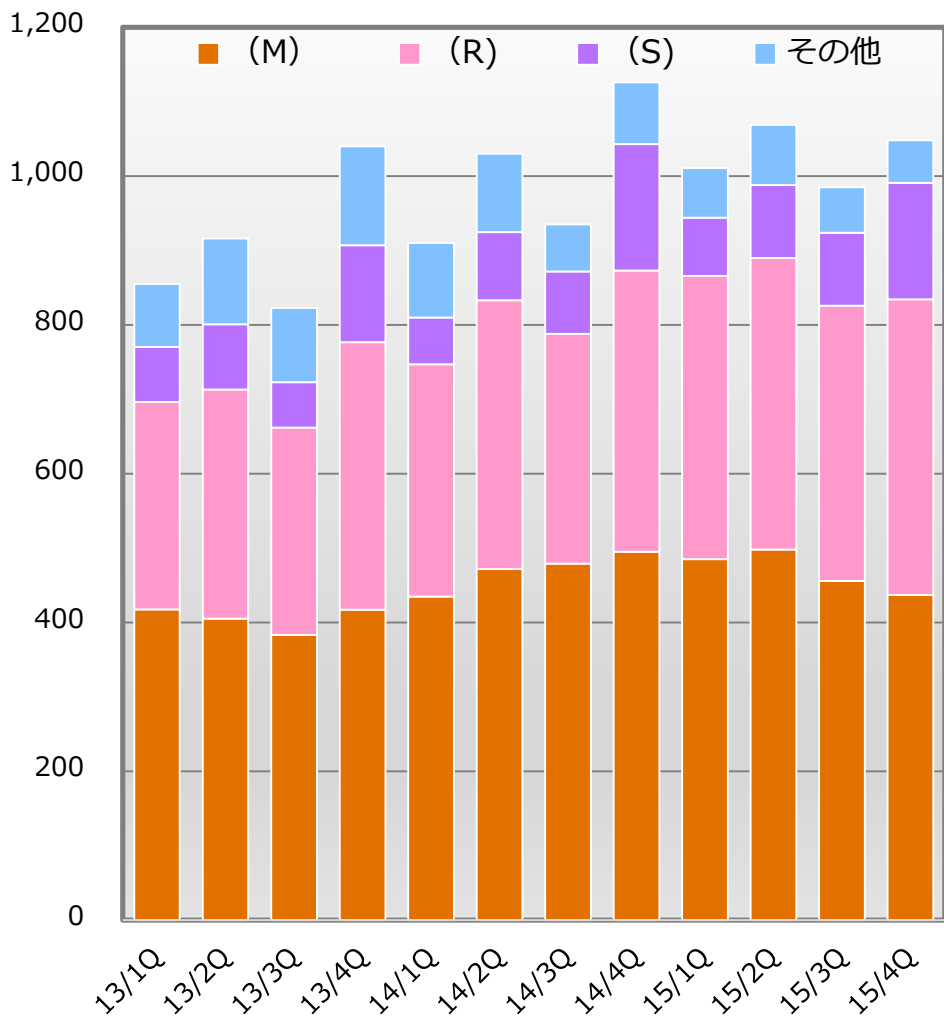
(億円)

# 連結売上高・営業利益推移（06年度～18年度計画）

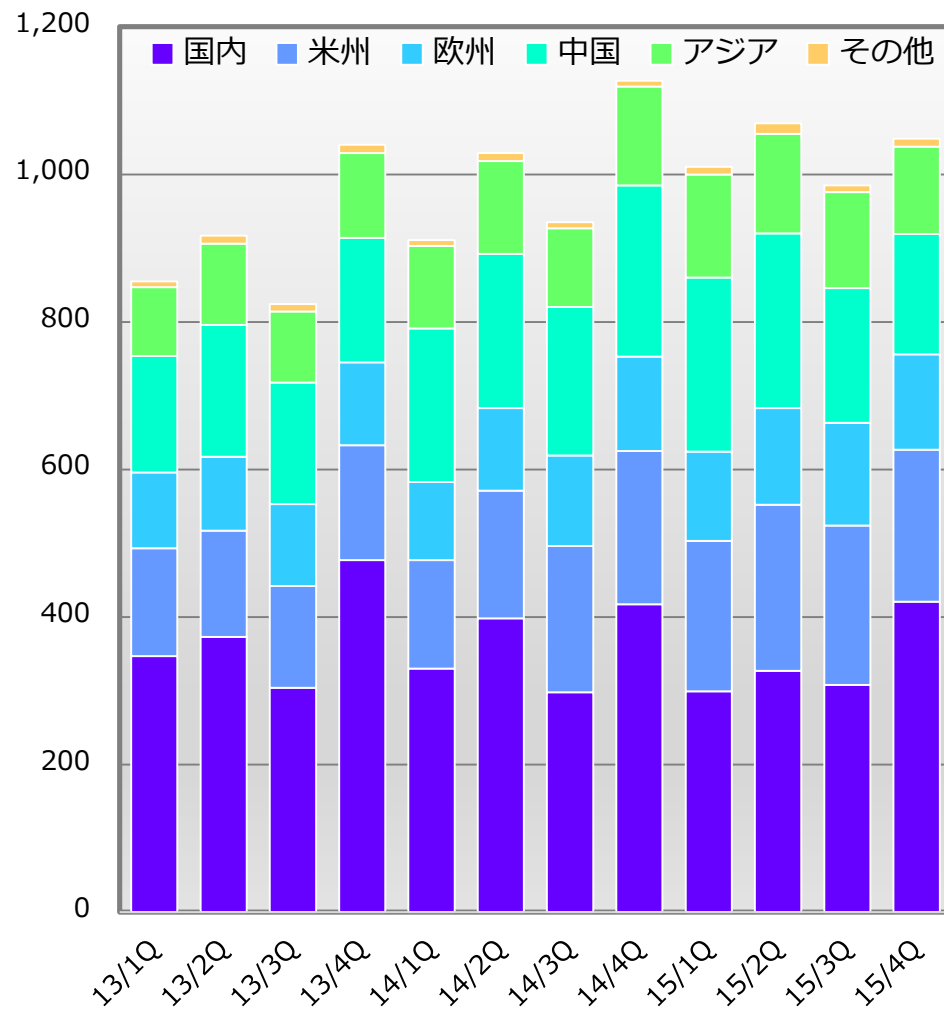


# 四半期連結売上高推移

(億円) **セグメント別**



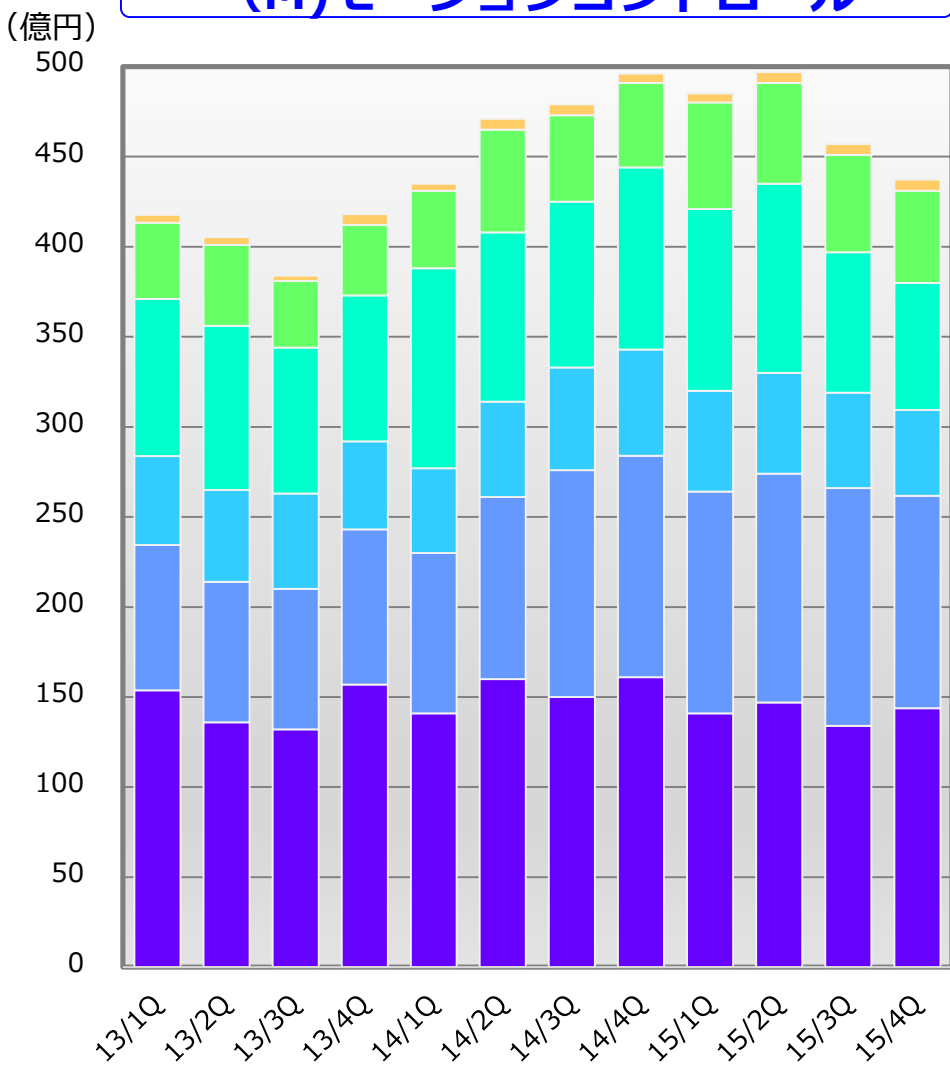
(億円) **仕向先別**



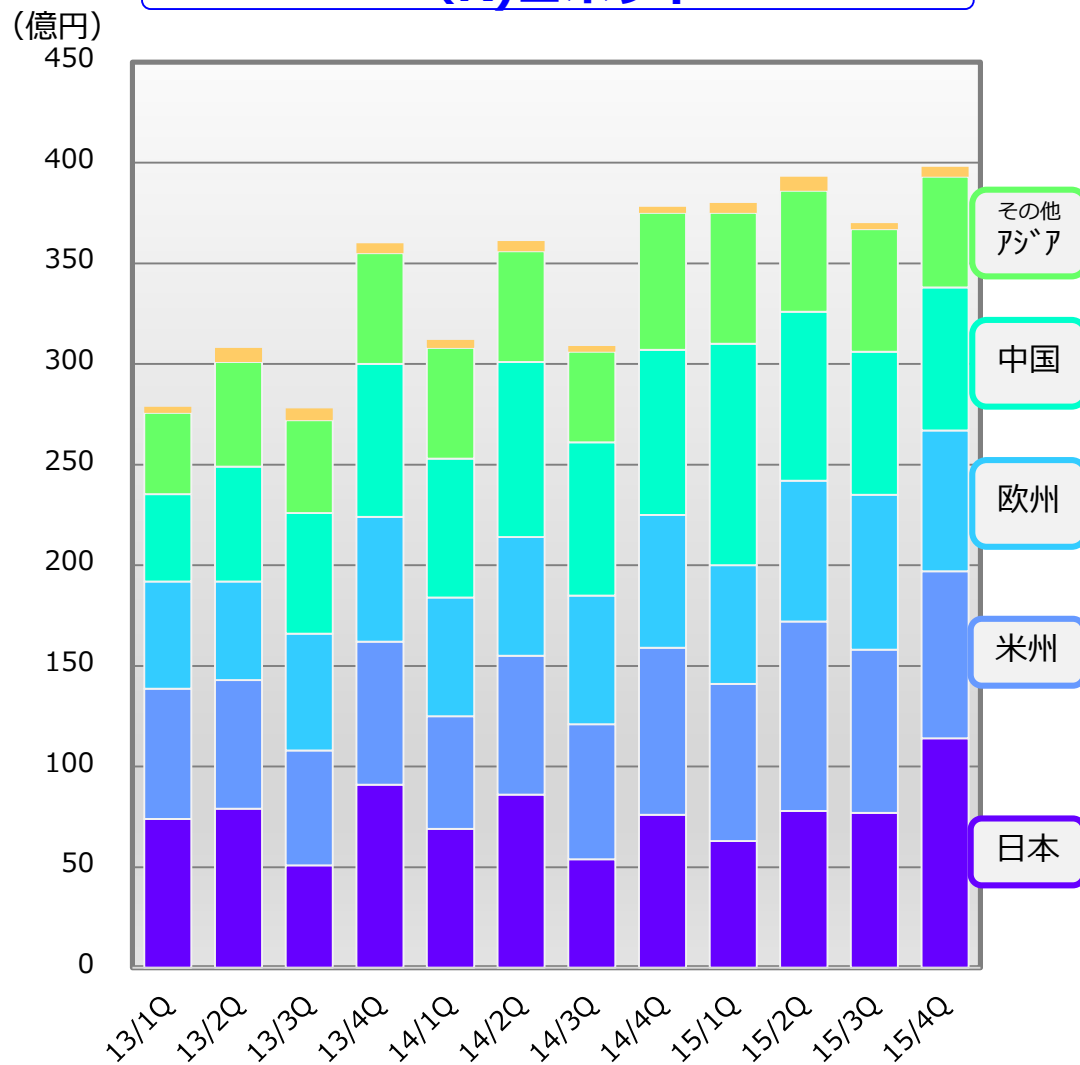
[注] 表記：(M) = モーションコントロール、(R) = ロボット、(S) = システムエンジニアリング

# 四半期連結売上高推移

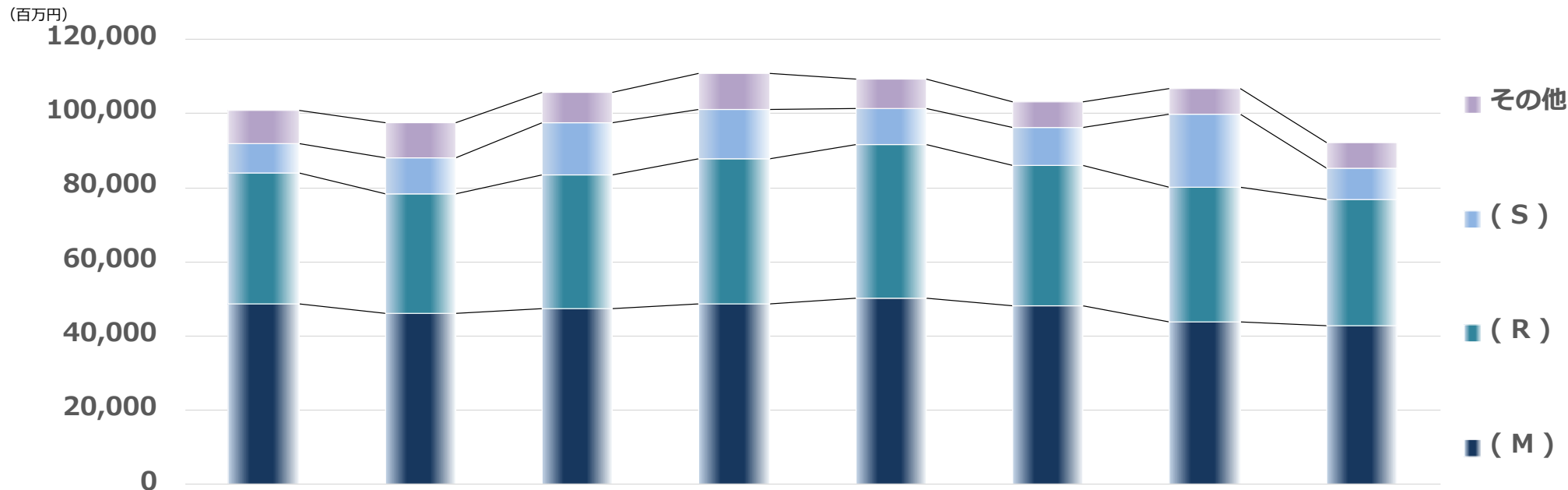
## (M) モーションコントロール



## (R) ロボット



# 四半期別連結受注推移



FY14 1Q FY14 2Q FY14 3Q FY14 4Q FY15 1Q FY15 2Q FY15 3Q FY15 4Q

		FY14				FY15			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
全社	YoY	+11%	+15%	+15%	+30%	+8%	+6%	+1%	-17%
	QoQ	+18%	-3%	+8%	+5%	-1%	-6%	+3%	-14%
YoY	( M )	+11%	+23%	+20%	+22%	+3%	+5%	-8%	-12%
	( R )	+22%	+10%	-2%	+30%	+17%	+18%	+1%	-14%
	( S )	-3%	+1%	+58%	+60%	+23%	+3%	+40%	-37%
QoQ	( M )	+22%	-5%	+3%	+3%	+3%	-4%	-9%	-2%
	( R )	+18%	-9%	+12%	+9%	+6%	-8%	-4%	-7%
	( S )	-7%	+26%	+44%	-5%	-28%	+5%	+96%	-57%

[注] 表記：(M) = モーションコントロール、(R) = ロボット、(S) = システムエンジニアリング

# 主要生産拠点



---

# YASKAWA